

南平配水場の利活用等について

1 概要

南平地区は、新郷浄水場が担う配水エリアであったが、朝夕の水需要ピーク時に水圧を確保するため、昭和60年10月弥平町公園内に南平配水場を建設した。

管理棟は地上2階 地下2階の鉄筋コンクリート造で、1階会議室は弥平2丁目町会に貸し出している。配水池は管理棟と一体の構造物であり、公園グラウンドの地下に貯水容量3,200立方メートルを2池有している。

南平配水場設置後配水管路の整備が進み、平成27年度に行った施設更新基礎調査業務委託により、新郷浄水場からの配水圧力にて、安定した水道水の供給が可能との解析結果が得られた。このことから机上の解析結果のみならず、平成28年7月から実証実験を繰り返し、平成29年5月からは全面停止実験を行い末端給水栓にあたる領家第4公園にて水質検査を実施した。

その結果、実証実験開始時から現在に至る間、配水圧力、水質ともに問題なく水運用ができる状況から南平配水場を廃止し、廃止後の利活用について検討したものである。

2 利活用等の検討結果

南平配水場の施設利活用については、当該地域が浸水常襲地域であることから雨水貯留施設として利活用するため、自然流下式と圧送式の検討を行ったが、事業費が膨大となること、また施設の対応年数が短いことから利活用しないこととする。また、除却解体費については、5億円以上かかることが判明した。

	配水池から雨水貯留施設へ利活用		
	配水池の利活用無	自然流下式	圧送式
概算事業費 (最低額)	5億円 解体費 公園復旧費 * 解体範囲などによって 金額が大きく変わる。	12億円 耐震補強費 導水管整備	29億円 耐震補強費 導水管整備 圧送施設整備
施設貯留率		約37%	100%
施設耐用年数		13年	13年
評価	△	×	×

3 南平地区における浸水対策の現状

南平配水場近辺においては、県道川口草加線と市道幹線第 18 号（南平工業団地通り）が交差する「弥平 2 丁目交差点」における浸水被害が喫緊の懸案となっている。

現在、この対策としては、市道内に貯留函を整備施行中（青着色範囲）であり、完成時には、800 立方メートル（プール 2 杯強）の貯留に加え、既存ポンプによる排水も併せると浸水対策区の影響範囲（緑着色範囲）の雨水処理が可能となり浸水を軽減できることが見込まれるものである。

今後も整備効果を検証した上で、必要に応じ、効果的かつ有効性の高い雨水施設等の整備検討を継続していく方針である。

4 今後の進め方

以上の検討結果をふまえ、解体費が膨大であることや近隣等への影響について、下記のとおり、今後さらに調査・検討を進めていく。

令和 5 年度	調査委託実施（概算）
令和 6 年度	関係各課との協議調整、 詳細設計実施
令和 7 年度以降	工事予算要求
令和 8 年度以降	工事実施

浸水対策図

市立高校
第2校地

南平工業団地通り

新芝川

南平大橋

貯留函整備中 (R 8 完了予定)
□1.500×1.500 800m³
緑エリアの余剰分を貯留

南平配水場

浸水区域

分水1




弥平2丁目交差点

凸版川口工場

新芝川
ポンプ排水

元郷中学校

県道川口草加線

-  浸水の影響範囲
-  南平配水場に自然流下式で取り込める範囲
-  既設貯留函

